



尚林庭園設計事務所  
〒193-0823 東京都  
八王子市横川町 1096-3  
Tel:042-622-8840

VOL.11

# センスとアイディア

## は世界的……？

読者からの  
嬉しい便り！

ウッドデッキの中に石を、飛石のように敷き、土足でもデッキの上を歩ける作品として、以前通信にて紹介した、そのお客様より、当方へ、うれしいお便りが届きました。

それは、カプリ島へのご遊覧中の出来事の話です。

あるレストランに入ったら、そのテラスの日避けの屋根が、何と、自分のデッキの上の日避けと寸分たがわぬ同じ造りではないか、そこで思わずパチリ！。



イタリアのよしず

それは、デッキを作った際には是非とも、日避けがほしいとのこと要望から造ったもので、よしず張りの、どちらかと言えばむしろ簡素なもので、間伐材の松の枝を利用した、その自然な「反り」が、なんと、優美なのでありました。

これこそ無作為の日本の、美と美と美と、何とあの陽気なイタリアで同じ感性に出合うとは……との驚きの報でした。



〇邸 林庭園作成のよしず



「春は曙、秋は夕暮」と枕草子にある様、日本には四季に応じた過ごし方があるもので、いつ頃からか、春秋のお彼岸にはお墓参りをする習わしが、一般的になりました。その際に、お花を供養しますが、よくそのお花の中に、アイリスの花を見かけます。

英語でアイリス。ギリシャではイリス。アヤメ科の紫色の花が一般的です。

この花が何で献花用の花として多く用いられるのでしょうか？

イリスは、ギリシャ神話では、虹の神であり、虹は天空と地上を架かる、七色の橋であります。天空、すなわち天上、冥界、で有り、あの世。また地上はいわば、この世。イリスは冥界と現世を継ぐ唯一の神様なのです。

あの世と、この世を交信できるギリシャの神が、いつ頃から、日本神話の「根の堅州国」の地下の冥界や、仏教での彼岸の仏国土を連想するものになり、いわば仏花の代表選手になったのでしょうか。何でも同化してしまう、日本とは

つくづく不思議で面白い国なのでしょう。



お陰様で弊社も、無事三十周年も過ぎ、さらなる四十周年、五十年へと新たに一步を歩みだしました。

年一回と、少し、すくな過ぎる発行回数のお便りの如く、お客様からのお便りの如く、一方的な通知ばかりでなく、お客様とのキャッチボールができる、そんな通信へと一新したいと思いましたが。

読者の皆様にも、子供の誕生の記念樹として植えた果樹が、成人とともに、実が付き出した。また、おじいさんや、おばあさんが大事にしていた木が、なにかこの頃、元気がない、また何処から飛んで来たのか、見知らぬ花が庭に咲きだした。等々の、木や草花に関する話を、たくさんお持ちだろうと思います。

是非とも、どんな小さな話でもお便りを、頂ければ幸いです。

こんな時勢だからこそ……。

